新生

心地よし　花々そよぐ　秋日和

小富士

東北新生園入所者自治会

新生

平成二十六年九月　十日印刷
平成二十六年九月二十日発行

新生　第六十六巻　第三号

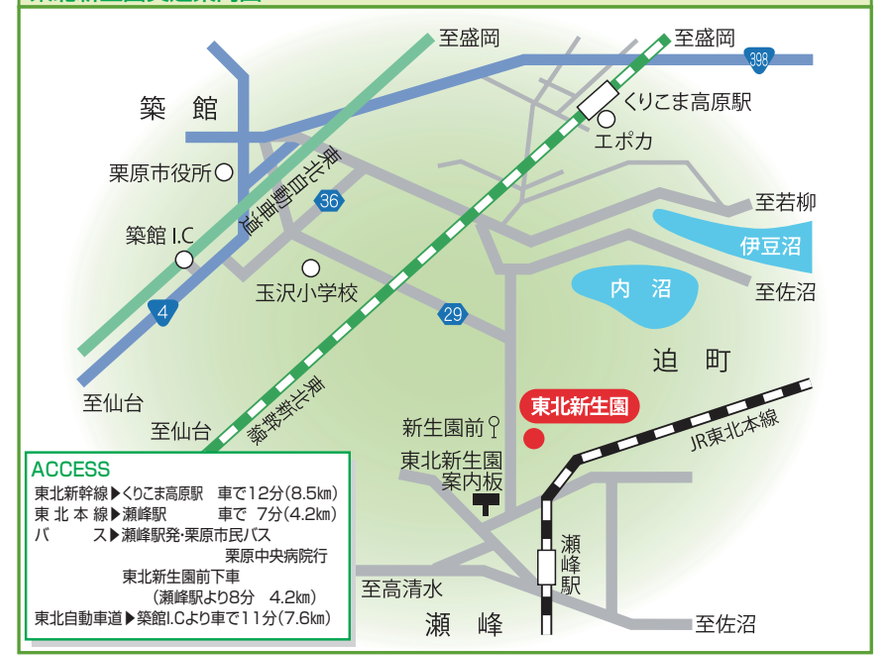
平成二十六年九月　十日印刷
平成二十六年九月二十日発行

第六十六巻第三号

東北新生園の概況

所在地	宮城県登米市迫町新田字上葉ノ木沢１番地
土地面積	３５１,２９１㎡
建物延面積	２５,２８０㎡
開園	昭和１４年１０月２７日
医療法承認病床	２４４床
標榜診療科	内科、外科、皮膚科、眼科、耳鼻いんこう科、歯科
現在入所者数	男３８名　女４９名　計８７名
職員定員数	１５３名（平成２６年４月１日現在）
園長	医学博士　横田　隆

東北新生園交通案内図



天皇、皇后両陛下 御来園

平成２６年７月２２日

御出迎え

園内日誌

平成二十六年　四月～六月

《四　月》

二十二日　観桜行事（抽選会・パークゴルフ大会）

《五　月》

十五日　曹洞宗岩手県宗務所来園（会長講話）
二十三日　春季バス旅行（登米市登米町方面）

《六　月》

十一日　宮城県パネル展見学バス旅行
二十日　らい予防法による被害者の名誉回復及び追悼の日
　　霊安堂お参り
二十七日　第三十一回高松宮記念杯近隣親善ゲートボール大会
　　（五十チーム参加）

【謝寄贈図書欄】

平成二十六年四月～六月（敬称略）

多磨	東京都	多磨全生園
姶良野	鹿児島県	星塚敬愛園
菊池野	熊本県	菊池恵楓園
青松	香川県	大島青松園
愛生	岡山県	長島愛生園
高原	群馬県	栗生楽泉園
点字愛生	岡山県	長島愛生園盲人会
楓	岡山県	邑久光明園
甲田の裾	青森県	松丘保養園

平成26年9月10日　印　刷
平成26年9月20日　発　行

発　　行　　東北新生園楓会（自治会）
編　　集　　楓　会　文　化　部
印　　刷　　川内印刷株式会社

〒989－4601
宮城県登米市迫町新田字上葉ノ木沢一
東　北　新　生　園　電話 0228 (38) 2121㈹
発　行　所　　東北新生園入所者自治会　電話 0228 (38) 3600

御懇談

入所者14名一人ひとりに
お言葉をいただきました

御供花

御見送り

写真:宮城県提供

新生・第六十六巻第三号……目　次

表紙…「風にそよぐ秋の花」……桃生　小富士

天皇皇后両陛下が新生園にお出で下さいました
……園　長…横田　隆…(2)
よろしくお願いします……看護師…梁川　直美…(13)
はじめまして……看護師…菅原　智…(15)
随筆「文化祭を前にして」……今野　きよし…(17)

＝新生文芸＝

詩……選者…佐々木　洋一…(20)
短歌……選者…長田　雅道…(22)
俳句……選者…山田　桃晃…(23)
川柳……選者…雫石　隆子…(25)
はじめまして……看護助手…鹿野　真由美…(27)
よろしくお願い致します……看護助手…小野寺　郁枝…(29)
随筆「文化祭」……今野　きよし…(31)
園内日誌・謝寄贈図書

天皇皇后両陛下が新生園にお出で下さいました

国立療養所東北新生園　園長　横田　隆

今日、行幸啓がありました。記憶が薄れないうちに記録をとめておこうと思い、筆を執りました。

話があったのが、二ヶ月前、かなり時間がない状況の中で、いろいろと準備に追われました。被災地に、両陛下がお出でになる、その機会を利用して是非、東北新生園を訪問したい…というご希望が両陛下よりあったとのこと、これは誠にありがたいことであり、謹んでお受けしたく思っておりました。

八年前に皇居に招かれて、皇后陛下へご進講させていただき、新生園の現状をお話したとき、皇后陛下より、「どうしたら新生園のお役に立てるでしょうか…」というお言葉をいただき、感激した思いがありました。新生園の現状をよく聞いて下さり、「どうしたら、今後、新生園が寂しくならないでしょうか」という、入所者が減少している状況を憂えたご発言もございました。

八年前は第一メープルケアセンター（三階建ての不自由者棟）が着工当時で、ブルーのカバーがかけられていた写真をお目にかけまし

したが、皇后陛下より、「一般の人はどこに入るのですか？」とのご下問があり、一般の人を外から入れて、初めて偏見差別の解消につながるのではないでしょうかという意でした。私は最初、何を仰せか、わかりませんでしたが、これは療養所の将来構想を見通した非常に鋭い洞察であると、あとで理解した次第です。

最近になり、ハンセン療養所の将来構想について自治体などを中心に検討しており、当園も昨年度から登米市、宮城県などと準備委員会を作っているところですが、まさに、皇后陛下が仰せの、一般の人を療養所に入れて…というものも構想の中にあり、これを八年前におっしゃった慧眼にハンセン療養所の所長として頭が下がる思いをしたものでした。

このような思いをいだきつつ、今回の行幸啓をお迎えいたしました。

【お出迎え】

白バイが二台、走ってきました。その後でパトカーが一台…いよいよ両陛下がお出でになる…緊張が高まります。

その後で、覆面パトカーが来て、二人下りて、走ってこちらに向かい…

三分遅れているという警察からの情報を得て、もう少しか…と待つこと数分。白バイが四台、その後で黒い乗用車、その後、ボンネットの上に菊のご紋章の旗をなびかせたリムジーンが来て、いよいよだと…緊張は高まります。目をこらすと、両陛下が後ろの座席に乗っておられます。

音もなく、リムジーンは予定の場所に着いて、お付きがドアを開け、皇后陛下が外にお出になり、陛下をお待ち、そして陛下が降りて来られました。

陛下、皇后陛下が並ばれたところで、「ようこそ東北新生園にお出で下さいました…園長の横田　隆でございます」とご挨拶を申し上

げました。両陛下は会釈され、「ご先導いたします、厚生労働省よりお出迎えです」と、厚労省から来ていただいた二川医政局長を紹介申し上げました。

医政局長のご挨拶の後、「ご休憩所へ私がご案内申し上げます」と述べて、両陛下をご案内しました。

第二メープルケアセンターの入り口は、普段あまり使っていないところだったのですが、ドアのレールなどの接ぎが多く、以前の下見の時に、宮内庁より〝両陛下へ、しつこいほど、お足元へ注意を促すようにして下さい〟との要請を考え、「お足元、ご注意下さい…」など、連発しておりました。両陛下の足取りは非常にしっかりしており、そのような心配はあまりないように思われました。

途中、廊下に盲導鈴が何カ所かあり、目の不自由な入所者のためのものであり、場所により音を変えている旨、ご説明すると、「どのような鳥の鳴き声があるのですか？」とのご質問で、「様々な鳥の鳴き声がございます」と答え、さらに「うぐいすはいますか？」の問いに、ございますとお答えしました。ご休憩所へご案内し、両陛下は部屋に入って行かれましたが、そのあとで侍従の方でしょうか、お一人のみが入室されました。

ここでご休憩所の廊下の両側はパーテーションで仕切られました。私は次に控えている、概況説明のことが気になりましたが、ご休憩所の前で、宮内庁の職員より、「概況説明は出来るだけ短く…両陛下よりご下問があるから、そのご質問にお答えして下さい、園長の発言は出来る限り短く…」という要請を受けました。これは予定になかったことでしたが、頭の中で、あれこれ算段して、端折るところは端折って…と瞬間的に概況説明の組み直しをしました。陛下への私の声の大きさは、ご挨拶の時の調子でやってくれればとてもよいと宮内庁職員より再度の注意がありました。陛下が聞き取れず、えっ？というお顔

をされても、失敗だと思ってどぎまぎしないようにして下さい、などと丁寧な注意もあり、ありがたい思いをしたものでした。緊張して佇立していると、肩をポンと叩かれ、後ろを振り返ると、村井知事がニコニコして立っておられます。〝頑張れ～〟と励ましを受けた気分となりました。

【概況説明】

宮内庁の職員より、時間であると告げられ、ご休憩所の前で待機していると、ドアが開き、両陛下がお出ましになりました。「陛下、これより概況説明をいたしますので、どうぞこちらへ…」と廊下のボードに用意してもらったパネル四枚、これは宮内庁より、字はやめて、写真にしてほしいとのことで、当園職員に全部、写真にしてもらったものでした。

一枚目は、園の航空写真で、両陛下がお出でになった経路をご説明しました。皇后陛下より、「どこまで新生園の土地なのですか…」とご下問があり、当園の敷地をお示ししました。

当園は以前より施設を囲う壁がなかったこと、園の真ん中に公道が通っていて、通勤、通学の外部の人が通っていたことをご説明すると、両陛下は興味深げに聞いておられました。

東北新生園と近隣の交流に、農業とゲートボールが大きな力を発揮したこと、当園には、皇室の冠を頂戴したゲートボール大会が二つあることをお話しし、高松宮様が昭和五十九年にお出でになったときに、予定の時間を過ぎてもゲートボールを興じていておられたことや、秋に行われる、寛仁親王妃杯の大会で、信子様のご体調が悪く、ご名代として、瑶子女王殿下がお出で下さり、ゲートボール大会の始球式をして下さったこと、ボールがゲートを通過するかご心配下さったことをお話しすると、皇后陛下は、「あら、瑶子ちゃんね…」と頷いておられました。

東北新生園には以前より、外に出ることが出来ず、また、園に入ってくることを妨げる壁がなかったこと、農業とゲートボール大会で、地域との交流があったこと、入所者の努力と近隣の人々の理解・協力で、差別偏見がなかったわけではありませんが、両者の協力で、それらの差別を吹き飛ばすべく、努力していたということをご説明いたしました。

天皇陛下よりは、「プロミンがなかった頃から、そのように近隣の人たちが新生園に来ていたのですか？」とのご下問があり、プロミンが出来て、治療効果が確認される以前より、新生園は外との交流がなされていたことをお話申し上げました。

「ご供花をお願いいたします」とのお声がけで、両陛下を霊安堂へご案内しました。

【ご供花】

この行幸啓のお話があったのが、二ヶ月前、去年の菊池恵楓園の行幸啓の話を、酒本園長より伺うと、十ヶ月前に話があったとのこと、園内の凸凹の道路やその他の補修もした…それが大変だったとのことでした。今から予算を取って、道路の補修は無理でした。酒本園長は今回の当園の行幸啓を大変ご心配下さり、菊池恵風園の行幸啓の記念写真集を送って下さいました。写真を見ながら、頭の中ではっきりとしたイメージが出来てきたので、酒本園長の助言は大変にありがたい教えだったと心より感謝申し上げるところです。

私が最も心配したのは、霊安堂へ向かう坂でした。両陛下は大丈夫でしょうか、特に下り坂は大丈夫でしょうか、と。予行練習の時に、宮内庁の職員にこのことは繰り返し指摘し、最終確認に来た専門官も、〝確かにかなりの急な坂で…皇宮警察に補助をお願いしないといけないかも…〟という認識になってくれました。

陛下へ、「霊安堂は坂の上です、坂がかなり急で、大丈夫か案じておりました」と申し上げると、陛下は、「大丈夫です」とはっきりお答え下さいました。

それでも、三年前の震災で、ヒビの入った道路でしたので、「震災でヒビが入りました、応急処置でアスファルトを流してもらいました」とご説明すると、皇后陛下より、「震災でヒビでしたか…」とのお言葉があり、アスファルトを流した所をお通りになるときは、「お足元、ご注意下さい…」と何度もお声がけさせていただきました。

途中の池では、皇后陛下が「池がありますね」とおっしゃったので、「実は十四年ぶりにこのたび、池の掃除を当園作業手にしてもらいました。元職員に錦鯉を十八匹、寄付していただきました」とご説明申し上げると、陛下は頷いておられました。

霊安堂の橋のたもとでは、久保会長がお出迎えしております。当初の予定では、久保会長にはご挨拶だけ…とのことで、二日前の宮内庁の最終チェックの時も、宮内庁職員に、〝久保会長には陛下はお声がけして下さいませんか〟とお話しましたが、その時間はないでしょうとのこと…ちょっと私はガッカリしておりました。

両陛下に、自治会の会長であるとご紹介申し上げると、「いろいろご苦労されて…」とお話になります。「いつから会長を？」とのご下問に、久保会長は「四十七年やっております」とお答え。陛下はご挨拶をされるだけではないご様子です。そこにとどまり、「おいくつになられましたか？」と。

久保会長は、「昭和八年生まれです」

陛下より、「私と一緒だ、傘寿のお祝いをされましたか、誕生日は何月？」

「二月です」

「では、もう八十一になられましたね」

傘寿のお祝い会を皇居で、皇后陛下が音楽会を陛下のためになされたことを報道されていたことを思い出します。

久保会長も、「なかなか言葉に表せません…」とのこと。

ご供花をお願いいたしますとのことで、両陛下より花を供えて下さいました。直前に、「物故者八百十九名、遺骨が四百三十二柱…」とのことをお伝えしておきました。

【ご懇説】

これから入所者とのご懇談です。さくら公園を見ながら、会場に向かいました。さくら公園は、公園兼避難所である旨、ご説明すると、何度も頷かれておられました。四つの東屋に被災の時の炊き出しの設備があるとのことに、陛下より、「うーむ、それはよい施設ですね」とのお言葉でした。

ご懇談の会場は、ちょっと歩いて距離があり、両陛下を振り返ると、天皇陛下の額に汗が…。「陛下、ご気分はいかがですか、大丈夫でしょうか」と思わず、お声がけすると、「はい、大丈夫です」との仰せ。ちょっと不安をいだきつつ、ご懇談の部屋にご案内しました。

ご懇談では、十四名の入所者が待っております。十四名の人たちには、ご協力してくださったこと、私は本当にありがたいと思い、感謝しています。考えてみると、久保会長を除けば、私が知っている人は、両陛下をお迎えしてからは誰もそばにおらず、私としても大変心細い気分でおりましたので、入所者さんたちが待っている姿を見て、何だか一安心した思いがありました。

陛下、皇后陛下と二手に分かれて、入所者に一言ひと言、お声をかけて下さいました。トマト作りに励んでいた入所者の前で、私から「普段、私は野菜を食べないですが、このトマトだけは果物のようで、美味しくいただきます」と陛下にご披露すると、「ずいぶん評

判のよい野菜を作っているそうですね」とお声をかけられました。花壇のお世話をしてくれている入所者には、「どのようなお花を?」とお声がけして下さいました。入所者からは、「長生きしてよかった…」「生きていてよかった…」と思わず声に出た、心からの喜びを感じたものでした。

特に陛下に付き従っていた私にとって印象的だったのは、ある入所者の、鉄魚に関する話で、陛下は大変興味を持たれたようで、何色ですか、黒か赤か…どこで採取しましたか、などご下問になり、昭和天皇に献上された鉄魚を皇居内の飼育所でご覧になった時のことをお話下さいました。入所者よりは、DNA鑑定をして、皇居に献上されたのと同じものだと確認したとの話がありましたが、陛下は一言ひと言に頷かれておられました。魚に関してご専門だと強く感じた一瞬でした。

新生園が創立された昭和十四年より入所している方には、「随分長い間、ご苦労されて」と陛下よりお言葉があり、隣の十五年入所の女性の入所者にも同じお言葉がありました。「ありがたい、ありがたい」と入所者からはなかなか言葉が出ない様子でした。

皇后陛下は、当園職員にもお言葉をかけて下さり、職員は大感激です。予定の職員よりも、入所者の介護に必要が生じて、参加出来る職員が増えたため、両陛下にお会い出来て、職員も思いがけない幸運に喜んでいたのが印象的でした。

ご懇談が終わりになり、入所者に両陛下は「どうぞお元気で…」とご挨拶下さいました。これから、ご休憩所へご案内です。

【お呼び込み】

ご休憩所へは、医政局長、総看護師長と私が招き入れられました。「お呼び込み」です。両陛下はご起立で私たち三人をお迎え下さい

ました。
そして、どうぞ、とソファを指して下さいました。私が中央、医政局長が陛下の前、総看護師長が皇后陛下の前に座りました。
お茶が用意されました。玉露です。このお茶の練習に担当職員はどれだけ、気を配ったでしょう。温度、蒸し方、時間など、あれこれ、茶道は誠に難しいものです。今回の不安なことの一つでした。色はどうか…味はどうか…など不安がよぎります。
皇后陛下の、「皆さんでどうぞ…」というお声で、私もお茶の蓋を開けましたが、色は上々、非常に安心しました。陛下・皇后陛下はお茶を飲んでおられましたが、お呼びこみの三人は、蓋は開けたが飲むことは出来ず…お話に対するお返事に集中しました。
陛下は、プロミンの治療がどのような変化をもたらしたか…ということに、非常にご興味があったようでしたが、現在はもう十五年以上、本病自体は治っている旨をお話すると、後遺症についてのご下問があり、ご懇談の席で、「神経痛」を訴えた入所者が何人もいたので、これはどういうことかとのご質問に、本病の神経に対する障害をお話しし、知覚神経は麻痺するが、自発痛は人によっては残る、などのご説明をしました。陛下は、なるほど、そういうものですか…と頷いておられました。プロミンについては、必要量を確保出来ず、治療が受けられなかった入所者も多く、薬の確保の運動もあったことをご説明しました。
皇后陛下よりは、「職員の体調は大丈夫ですか？」と総看護師長にご質問があり、総看護師長よりは、「腰を痛める者もいますが、みんなプロですので、それは用心してやっています」と答えました。さらに皇后陛下は、「入所者は少なくなったけど、職員は少なくなったのですか、それは大変ではないですか」とのご下問があり、これは全療協が以前より最大のテーマにしている大問題であり、皇后様はこのことをご存じなのだろうか…と

私は仰天しておりました。
医政局長はすぐに、「入所者数は減りましたが、介護度が上がっているので、必要な人員は付けるようにしています」とのご説明をして下さいました。二週間前に医政局長になったとは思えぬ、自信を持った、説得力のある説明に、私は驚くとともに、私からは「今年度は本省より増員もしていただきました」と追加のご説明をし、皇后陛下はご安心なさったようでした。陛下は医政局長に、「わざわざ東京からお出でになって…ありがとう」とのお言葉には、局長も感激しておられた様子でした。
入所者の趣味について、カラオケも以前は大会があり、新しく来た職員は大会で歌って初めて仲間に入れてもらえる雰囲気があったという話をご披露すると、皇后陛下より、「園長先生も歌われたの？仲間に入れてもらいたくて？」とユーモアのあるご質問にはつい笑ってしまいました。
入所者の楽しみとしては、今週に恒例となっている花火大会があり、これは元副園長で、石巻で開業されている森先生という方がスポンサーになっていただいて、毎年夏に行われており、今回十六回目で、お祭りの出店も出ます…というお話をすると、皇后様より、「近くの子供さん達も来るのね…それはよいお祭りですね」とのお言葉を頂戴しました。

【お見送り】

時間が来て、宮内庁職員の合図で、私たち三人はお礼を述べて、外に出ました。陛下が、お茶のお世話をしてくれた職員にお礼をおっしゃりたいとのことで、担当職員四名が廊下に並び、両陛下よりお言葉を賜りました。ここまでお気を配っていただき、胸が熱くなる思いでした。担当職員も突然のことで、嬉しい驚きに緊張して頭を下げておりました。

最後のお見送りの時に、五十名の入所者が集まってくれましたが、「移動出来る入所者五十名がお見送りに出ております」と両陛下にお伝えすると、皇后陛下は車に行きかけたのを、戻ってきて、「歩けない方もおられるのですね…その方に是非よろしくお伝え下さいね」とのお優しいお言葉を頂戴し、私は大感激して両陛下をお見送りしました。両陛下は車の中からも、身を乗り出すように、お見送りの入所者・職員にお手をお振り続けて下さいました。

八年前に皇后陛下より、皇居にお呼ばれし、新生園の事をお話しし、皇后陛下は非常に興味をお持ちになり、よく新生園の話をお聞き下さいました。最初の予定は四十分でしたが、その後ももう少し、新生園の話を聞きたいとのことで、三十分延長してお話させていただきました。「どうしたら新生園の入所者のお役に立てるでしょうか」というお言葉はありがたく、〝皇后様のお言葉を聞けば、入所者はとてもうれしいと存じます〟とお答えしました。「どうしたら新生園が寂しくならないでしょうか」というお言葉は、今回のお呼び込みのお席でもお話し下さいました。

常に、ハンセン療養所の事を気にかけ、将来のことを的確に洞察し、入所者に癒しと愛情を下さる両陛下、私は両陛下には施設長として心より感謝申し上げ、幾久しく、ご健勝であられることを祈願するものです。

（行幸啓の夜 記す）

よろしくお願いします

看護師　梁　川　直　美

皆さま、はじめまして。今年の四月一日より東北新生園に看護師として勤務させて頂いております。配属先は第一病棟です。どうぞ宜しくお願い致します。

自己紹介をさせて頂きたいと思います。出身は、岩手県岩手郡岩手町という所で、岩手の県北の方です。山の中の山奥で自然がたくさんある所で育ちました。（しつこいようですが）見渡す限り山で、斜面になった大きな畑で両親は野菜を作り、現在も農家をしています。子どもの頃は、野菜を洗ったり、箱を作ったり、朝早く市場に出荷に一緒に行ったりと、当時はそれが当たり前の生活でした。今はいい思い出として残っています。

自然というと、山の中に沢があり、そこには沢ガニがいたり、貝（名前忘れました）が採れたり、川に行けばヤマメ等が釣れ、祖父とよく行って家で焼いて、みんなで食べていました。とてもおいしかったのを今でも覚えています。春には、わらびやたらの芽、蕗の薹、うるいなど山菜がたくさん通り道にありました。夏になると、田んぼや野原に鬼ヤンマや銀ヤンマ、シオカラトンボが飛んでいて、網で必死になって捕ろうとしましたが、なかなか捕まえられませんでした。冬は、大雪が降り、畑がスキー場となり、スキーをしたり、かまくらを作って遊んでいました。小さい頃は、小岩井農場で雪まつりをやっていて、毎年見に行くのを楽しみにしていたものでした。

現在、私の母校の小学校は過疎化の為、閉校してしまいました。そんな自然に囲まれた生活は聞こえはいいですが、私にとっては大きくなるにつれ、不便だと感じるようになり、

毎年のようになる霜やけも嫌で、早く暖かい所で暮らしたいなあと子供心にも思っていました。そこで人生一回目に、私が選択しなければならなかったのは、高校でした。迷った結果、私は好きなスポーツを続ける為に、盛岡の近くの高校に進みました。親元を離れるのは寂しかったのですが、雪の少なさに喜び、少しでも寒い所からは解放された気分でした。

そして高校卒業後の進路を決めるにあたり、二回目の選択をするところになりました。スポーツをまた続けるか悩みましたが、小さい頃から子どもやおじいさんおばあさんのお世話をする事が好きだったので、人の役に立つ仕事をしようと決め、看護師の道を選びました。盛岡の看護学校に進み、准看からでしたので、五年間は仕事をしながら学校に通い、途中で逃げ出したくなる時もありましたが、なんとか卒業することが出来ました。就職は、これもまた悩んだ末、友達と一緒に古川の病院に決めました。古川という土地は全くの無知でしたが、宮城という事で、また少しでも暖かい所に行けるなと思いました。が、それも束の間、古川も盛岡と同じくらい寒く、雪も多くがっかりしましたが、私は雪と寒さからは免れない運命なのかと諦めることにしました。それから数年後、美里町に嫁ぐことに決めました。これもまた、岩手に戻るかどうするか迷った末の選択でした。

人生には、何度も選択しなければならない時があります。時には、後悔もしました。でも、今の自分と、ここにこうしていられるのは、関わってくれた人達のお陰だと思うと、最終的には、これで良かったんだなと思っています。このご縁を大切にしたいと思います。

入職してから五ヶ月が経ちますが、入所者様、職員の皆様には親切にご指導して頂き感謝しております。これからも、ご迷惑をお掛けするとは思いますが、皆様に教えて頂きながら頑張りたいと思いますので、どうぞ宜しくお願い致します。

はじめまして

看護師　菅原　智

五月一日から東北新生園山鳩センター勤務となった男の看護師です。

勤務してから早、三ヶ月となります。他の職場で各科（主に精神科で通算七年）を仕事してきましたが、勿論ハンセン病に携わるのは初めてです。前もって勉強してきたのですが、思ってた以上に四肢や、指を欠損してる方が多く、ちょっとした圧力などで傷をつくってしまう現状は想像以上でした。他の医療施設にはない独自の処置方法。また、どの様な処置をすれば傷にならないように予防出来るのか試行錯誤しています。

簡単にですが、この場をもって自己紹介したいと思います。ここ登米市の隣の栗原市若柳町が住まいで、車で二十分程の所にあり、出勤の度に伊豆沼を横目に通っています。看護師になるきっかけは子供が好きだからでした。

高校の三年間は部活のバスケットボールをしながら地元の若柳公民館を拠点にジュニアリーダーというボランティアサークルの活動をしていました。若柳の各地区からの要請に応え、夏は海水浴の要請があれば保護者の方々がお昼の支度をしてる間、岩陰や沖など危険な場所に行かない様に浜辺でレクリエーションをしたり、クリスマスが近くなる十二月などは母子寮や同じく地区の要請でクリスマス会できよしこの夜を歌ったり、サンタの格好をしてプレゼントを配るなどのイベントをしました。

そんな子供好きな私でしたが、高校を卒業する平成十二年は新聞に大きく「少子化問題」が騒がれており、保父さんになっても仕

事先に子供が居ないのでは、とても保父さんになるのは将来性に欠けていた時代でした。

母も看護師をしているのですが、その影響もあってか老若男女。子供から老人のお世話をする看護師の仕事をしようと思い、看護師になりました。

小児科に至っては、私は身長が約百八十cmもあり、大きな身体の男性が近寄るだけで子供には先生(医師)と勘違いされ泣かれてしまい、男の看護師において小児科に勤めるのは難儀しました。一般の病院での小児科入院患者は大体が肺炎で、子供は回復が早く、私に慣れた頃には回復して退院します。これが小児科における男性看護師の現実でした。

昨今は小学校も保育園も殆ど合併して送迎バスが行き来し、子供が多く、保育士が足りないのが現状です。時代が違うとまた異なるものだなと思いました。

そんな私ですが末永くお付き合いして頂くと共に、ご指導・ご鞭撻して頂ければ幸いです。よろしくお願いします。

随筆

文化祭を前にして

今野　きよし

A　入所者　　B　職員

A　秋の文化祭を行うと聞きましたが
B　そうです、皆さんもいろいろな作品を出して下さいね
A　どんなものを出すのですか
B　なんでも良いですよ
A　例えばどんなものが良いですか
B　文芸、手芸、鉢物なども良いですよ
A　そうですか、私も考えてみます
B　そうして皆さん盛り上げて下さいね
A　私も何か出そうかな
B　出そうかでなく、出して下さいざとなるとね
A　そんなこと云わないで下さい
B　改まると何も無いのです
A　そうでしょうね
B　もう皆さんにも話をされたんですか
A　ぼつぼつ話をしております
B　それは楽しみですね
A　そして良い物を出して下さいね
B　私はいつものですが
A　それでいいですよ
B　そういえば食堂前にポスターありましたね
A　そうですよ
B　どなたが作ったのですか
A　あれはKさんが作ったのです、なかなか良いでしょう
B　そうですね、ほれぼれします
A　そんなに良いと思いますか
B　とても良くてプロ級ですね
A　実は私もよくわからないです

A　そうですか、皆さん手分けして準備しているのですか
B　いろいろ手分けしているものですから
A　職員の皆さんでもわからないこともあるのですね
B　私たちは休みがあったりすると隅までわからないこともあります
A　作品どの位出るのかわからないですか
B　これからです
A　私は川柳と鉢植えのさつまいも出そうかと思っております
B　それは珍しいですね
A　そんなに珍しいですか
B　そうですよ
A　私は自分でも思うんですが、変わった物を出すようになったと気にしています
B　そんなことありませんよ
A　そうですか、安心しました
B　皆さん主役ですからね
A　私たちですか
B　そうですよ
A　どうしてですか
B　皆さんは主役、私たち職員はあくまでもお手伝い、裏方ですよ
A　そうですか、相取りですね
B　うまいこと云いますね、相取りとはだってそう思いましたもの
A　この言葉、意味は深いですね
B　そんなに意味の深い言葉なんですか
A　私はそれに気付きませんでした
B　どんな物が出るか楽しみですね
A　この企画はね、皆さんの体の中に、心の中に埋もれているものを出していただきたいのです
B　私たちの体の中に、心の中にですか
A　そうですよ、去年の秋の柿挽ぎ皮むきの時の皆さん、若い時のこと思い出して生き生きしてましたよ

A　そうでしたね、ついこの間のような気がします
B　だからね固くならないでね
A　そうですよね
B　まだありますよ
A　春のトマト植えの時もそうでしたね
B　あの時は楽しかったですよ、やってましたね
A　あの時は楽しかったですよ
B　だからね、固くならないで
A　そうですね、難しいことないですね
B　そうですよ
A　後はないかね
B　まだまだありますよ
A　目的はなんですか、この催しの
B　それは、あくまでも皆さんの生活に明るい希望とうるおいを持っていただくことですよ
A　それが目的ですか
B　それ以外には何もありませんね、成功を祈ります、皆さんの協力をいただいてね
A　こちらこそ宜しくお願いします、楽しみです、わくわくして来ました
B　それは良かった、計画を立てたかいがありました、皆さんこれからですね

第１メープルケアセンター
「文化祭」手芸コーナー
（平成25年10月）

詩

佐々木　洋一　選

◇入　選◇

《入浴》　今野　きよし

お風呂ですよと
介助係のKさん
迎えに来る
はいと返事をする
支度はまあだ
行きましょうと

声かけられる
ゆっくり浴場に

着物を脱いで
シャワーを浴びて
湯船の中に
湯かげん
熱めである
ぼうっとなって
のぼせぎみになる
湯船につかる

ほんのわずか
時間でさえも
風呂には弱い
いつも乍らの
ありがたくなる
只ぼうとして

湯舟から上り
頭洗って体洗っての
介助を受ける

体なかなか
動きが悪い
もう一度
湯舟につかり
さっと上って
来たけれど
体の方は
動きが悪い

全部終って
はあ良かったと
入浴終えての
手を上げて
ばんざいしたく
喜んだ

【選　評】

《入浴》　今野　きよし

入浴の様子を詩にするのは珍しい。入浴という日常のあたり前の出来事が、緊張感をもって表現されている。
終連からは、ほのぼのとしたユーモアを感じる。とても温かくなる作品である。

短歌

長田雅道選

◇入　選◇

連休に弟妹たちが来るというこれが最後と思うて待ちぬ　今野きよし

【選　評】　久しぶりに会いに来る弟さん妹さんなのであろう。作者のよろこびがよくわかる一首である。しかも最後の会いと思うとは切実な感情だ。胸を打たれる。

◇佳　作◇

音もなく静かに降りし春の雨芝生濡らして青さ深まる　今野きよし

人逝きて自らなる寂しさをじっとこらえて生きる他なし

隠れたる知識を待ちし看護師にわからぬことをこっそりと聞く

八歳でリュウマチ病みし妹が七十八となり会いに来る

朝早く起きて迎える巡回の看護師さんの明るい笑顔

かたことと盲いの妻は何事か手探りながら引出し開ける

俳句

山田桃晃選

◇入　選◇

山奥に巣箱を運び汗を拭く　今野きよし

【選　評】　蜜蜂の巣箱を麓での収穫も良好なので次は山奥へと運び込む喜びは、汗となっても疲れなどどこ吹く風、沢山の蜜の薫りに癒される。

梅雨寒や腹の底まで冷えそうな　園永泊

【選　評】　寒暖のはげしい今年の梅雨。その通りですね。生きる力を振りしぼり、堪える力こそ生きる喜び、腹に力を入れて頑張るくらしが見えて来る。

新生園の空にきれいな盆の月　斉藤照雄

【選　評】　らい園などと言う必要はありませんね。わざとらしさが見え見え新生園で充分通ります。綺麗な空に盆のやさしい月が見守ってくれます。

◇佳　作◇

新生園のその片すみに咲くすみれ　斎藤照雄

梅雨明けて今日の始めの大あくび
梅雨明けて胸一杯に吸う空気

葉桜や蝶々せわしく通り抜け　園永泊

朝顔の花を数える顔に幸
二人目の恋人と来ぬ天の川

運び込む巣箱を解く栗の花　今野きよし

山奥に巣箱を並べ栗の花
思いやり深き訛や藤の花
裏窓に夕日差込む梅雨晴間

◀宮城ハンセン病パネル展（県庁）
－平成26年６月11日－

第31回高松宮記念杯
近隣親善ゲートボール大会
－平成26年６月27日－ ▶

川柳

雫石隆子選

◇入　選◇

《人位》
仲直りのきっかけバラの香に尋ね　長沼蓮花

【選　評】　仲直りのバラは庭のものか、それとも花瓶のものか、花束なのかは判然とはしないが、香しいバラを仲立ちにしようとしている。とても女性らしい心が見え、ふんわりとした感性を感じます。

《地位》
らいの船何度も何度も座礁して　斎藤照雄

【選　評】　とても厳しい作品です。そして、新生園の皆さんでないと吐けない一句でしょうね。ハンセン病に対する偏見と闘ってきた作者の本音が、痛ましくもこの一句になったと思います。

《天位》
日本のこぶしに涙かわかない　桜山南仙

【選　評】「日本のこぶし」ですから、新生園の皆様だけではなく、広く国民の「こぶし」として鑑賞できます。これは拉致家族等々…多くの悲憤に嘆く人間の心の叫びとして天位としました。

◇佳　作◇

予選での敗退決まり天仰ぐ
脱法ハーブ他人の未来奪い去る
上手だねやる気引き出すほめ言葉

長沼蓮花

認知症大事なことはすぐ忘れ
用のない話に夢中認知症
認知症他人のことと思いたい

今野きよし

天井のない天までもつむ国債
縄かける手にも縄をかけられる
ころころと変わる心に友がない

桜山南仙

花びらに夢を結んだ露の玉
浜昼顔咲くや故郷の海恋し
蓮咲いて浄土の湖面行く如し

桃生小富士

その昔私を叱ってくれた父母
らいの船航行不能など知らず

斎藤照雄

はじめまして

看護助手　鹿野真由美

四月より山鳩センター看護助手として配属になりました鹿野真由美（かのまゆみ）です。私は、岩手県一関市生まれ、栗原市若柳育ちです。この度、東北新生園でお世話になる迄、私の歩んで来た人生の中で、皆様にお話しできる程の経歴、趣味、経験が、あまり思いあたりません。教訓となった出来事についてお伝えしたいと思います。

平成十五年七月二十六日午後四時五十六分、地元企業に勤めていた私は、休日で五歳の長女と一歳の次女と自宅の居間で過ごして居り、次女が「爺ちゃんの部屋に行く」と移動直後に突如、とてつもなく強い縦揺れの地震。それは震度六弱の宮城県北部地震でした。直ちに屋外避難しようと居間を通過の際、欄間に掛けていたガラス張りの額がドンッドンッと次々に落下するのを目の当たりに娘達を抱きかかえ、必死の思いで屋外へ飛び出しました。もし、次女の居間から離れる訴えがなければ私と二人の娘は、居間で真下に落下する額の下敷きになり、今、この世に存在しなかった事は言うまでもありません。その後、片付け等に追われ、安全の確保に努めました。

そして、平成二十年六月十四日八時四十三分、震度六強の岩手宮城県内陸地震発生。

その時私は、外出先より戻り、車を車庫に入れていました。ブレーキをかけてエンジンを切った矢先、突如車輪が左右に大きく持ち上がるように揺れ、車外へ脱出する事も困難な状況でした。ここでも、出先が震源に近く危険と隣り合わせになり、人の運命を痛感した事も忘れられません。

それから翌年の平成二十一年三月には、知

的精神障害者社会復帰施設の職員として働き始め、その三年後の三月十一日、誰もがいつもの朝を迎え、平穏な時間を過ごし各目的地に向かった事でしょう。午後二時四十六分、太平洋沖三陸沖を震源とする最大震度七の未曾有の巨大地震（東日本大震災）発生。当時、すぐ様、電話回線不通、公共交通網等の混乱。通勤事業所内でケアホーム、グループホーム全入居者の避難受入れ後の生活対応は厳しい状況にあり、栗原市内にあるグループホームの入居者については、幸運にも防災活動の盛んな地域への避難所での受け入れをお願いすることが出来ました。登米市内の活動先を利用していた入居者は、最寄りの総合支所にて避難されていました。その方々の迎えに行き、お互いに無事で再会出来た喜びを分かちあったことも忘れられません。岩手宮城内陸地震では、半日でライフラインが復旧した実績より夜九時には、復旧すると予測していましたが、その見込は、たちそうになく数日を費やす困難な状況。

私個人として家族の安否の確認がとれない不安な状況ではあるものの、他職員と共に入居者の避難確保に奔走しておりました。

午後八時過ぎ、帰路につき家族と無事再会出来た喜びは、感慨無量なものを覚えています。しかし、相次ぐ強い余震によりライフラインの断絶が続き、自宅倒壊の心配で眠ることが出来ませんでした。その時、栗原市広報の放送で若柳ドリームパルでの避難所が開設した事のお知らせでした。すぐさま家族皆でドリームパルへ向かい、三月十六日迄の六日間、人生初の避難所生活を経験する事になりました。最低限の寝具類、生活用品を持ち込み、ホール内全面に数百人もの地域住民との共同生活が始まったのです。水、食料、ガソリンの確保に寒い中、立ち並ぶ等、これ程迄に痛感した日は有りませんでした。ある朝、

八時前に昼夜何時間もかけて全国から給水車や物資輸送車がドリームパルに到着した時、胸が沸騰したお湯の様な熱い想いは、今も尚、感謝に耐えません。テレビからの情報収集が困難な中、新聞や車のラジオで全国からの激励メッセージを見聞きする度、涙を流しながら運転していました。これ迄私が、生きて来た人生の中で日本の国に生まれた事を初めて誇りに思えた様な気がします。何度も危険に遭遇しつつも、たくさんの人々の思いやりに支えられて途中で諦めることなく苦難に立ち向かうことを学びました。

今後、この助かった命で社会に貢献していきたいと痛切に思って居ります。御迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、ポジティブ・シンキングで頑張りますので、どうぞ宜しくお願い致します。

よろしくお願い致します

看護助手　小野寺　郁　枝

四月一日より東北新生園で看護助手として第一メープルケアセンターで勤務させて頂いております小野寺郁枝と申します。

私は、生まれも育ちも嫁ぎ先も栗原市築館で、今までの職場もずっと築館でした。今回ここ新生園で勤務することになり、初めて栗原市から飛びだしました。初出勤の時は、車の中でドキドキしていました。

今まで私は十三年間病院で看護助手として内科病棟、整形外科病棟、療養病棟で働いておりました。

さて、こちらに採用頂いてから早いもので四ヶ月が経ちました。先輩方には初日より丁

寧にご指導頂き、入居者の皆様には暖かい目で見守って頂きながらの、あっという間の四ヶ月でした。

毎日が不安でメモを何度も読み返したりしながらの業務をして、覚えるのに必死になり、笑顔すら出来ず余裕がありませんでした。私にこの仕事が務まるのかなあと毎日考えていました。でも今は、先輩方の優しさと温かい言葉のおかげで、なんとか仕事の流れを掴めるようになりました。本当に感謝しております。まだ失敗もあり抜けたりすることも多々ありますが、先輩方にフォローしてもらい日々頑張っています。

最近は入居者様に「小野寺さんね。」と名前を覚えてもらえるようになり、大変うれしく思っています。

新生園で働いていて思ったことがあります。職員全員が入居者様を大切に思い、入居者様が第一という思いで対応していると、その人を中心にしたケアをしていてすごいなあと思いました。ここでは入居者様との関わりの時間もあり、自分の担当の入居者様とゆっくり対応することができて私自身、気持ちにゆとりを持つことが出来嬉しく思っております。

最後になりますが、まだまだ分からないことが多く、仕事の難しさを痛感している所です。スタッフの皆さんや入居者様には大変ご迷惑をお掛けしておりますが、一日でも早く一人前として仕事ができる様に努力したいと思っていますので、今後ともよろしくお願い致します。

随筆

文化祭

今野　きよし

第一メープルケアセンター、秋の文化祭は、十月五日から十一日までの日程で始まった。

メープルケアセンターは一階から三階まであり、私の住んでいる二階から見ることにした。

始まる前は、貴方たちは主役です私たち職員は手伝いですよと云っていたが、いざ始まるとどうしてどうして職員の皆さんの熱意にはとてもかなわない気迫を感じた。

気迫に圧倒されて気持ちが萎みそうになった。

始めに見たのは記録室に飾られた陶器である。数を数えてみると二十個ほど、その他小さい物もあった。

説明を聞いても「はあはあ」と聞くばかりで、私の目には美しく、素晴らしいの一言につきる。

出品者は看護師さん介護員さんと多士済々の方々である。又、他の職場の方々の出品もあり退職された方の名前も見受けられた。

顔は見えないけれども元気で居られると、ほっと一息つく思いがした。名前の見えない方に聞いたところ、物はあるけれども重たくて持って来られないとの事である。それなら軽い物でもと話をした。そのうちに持って来て見せてくれると期待している。

皆さん家には、埋もれた作品、眠っている作品もあるだろうと想像される。

二階の西の方には、個人部屋十室ある。中程の北側にサンルームがあり、出窓の所に川柳の色紙、又、画が飾られ、目についたのは丸いテーブルに茶器があった。

模様のついた布巾を敷かれ、その上にざる

の形をした入れ物に急須、茶碗と並べられ漆塗りのなかなか凝った物でうっとりさせられた。

「茶を入れてなかなか来ない句友待つ」と、一句うかんだ。

そこから引き返しエレベーター前に飾られたEさんの短歌、Kさんの川柳を見た。

次に、東のサンルームを見ることにした。写真、パネルと飾られ、私のさつまいもの鉢植えもある。さつまいもは五本なっている。文化祭が終わったらさつまいも掘りを楽しみたいと云ってあるが、いつになるか待ち遠しい。

それから三階の展示を見ることにし、エレベーターで三階に行った。

三階の記録室の角には石に描かれた洋画風の絵が飾られている。少女の絵は何か一点を見つめ、優しい眼差しのこもった絵である。

その他十七、八個もあって、それぞれの個性が沁み出ている。仕事で忙しい中にあって、これほどのものを書いたと感心させられる。

目を天井に向けると折紙の長い物が吊されている。看護師さんが「私の母ちゃんの作品なの、今年九十二才になるのです。私の母ちゃんの折ったのを見て下さい。家の母ちゃん目が良くて、手ど良くて、器用なので。私はだめ、手ぼくされ、不器用だから。後で見てけさえんね、吊しておいたから」と云われたので見に行ったのである。見たところ話の通りであった。後で見に行った事を話したところ、とても喜んでくれた。

私の物も置いてあるからと云われたので見たところ「私の心」という作品である。やはり親娘という印象を受けた。

三階の西のサンルームには窓際に右の方から、布を細かく縫い合わせて作った手提げ袋。どなたの作品ですかと聞いたところ介護員のIさんの物とそっと教えて呉れた。名前を聞

いてははんと頷いた。あの方ならと思われる出来映えで五、六点もあった。

Tさんの毛糸の編み物は何十年も前の物を大事に仕舞っておいたのであろう。やはり文化祭を行って貰って良かったとうれしくなった。

こんなに良い物を私たちのために見せて貰って感謝の気持ちで一杯になった。

目を左に向けると刺繍のオンパレードというような小物がたくさん並べてある。ライオンの刺繍があった。文化刺繍というものなのだそうで、今にもライオンが飛び出して来そうな迫力のあるものである。いつの頃の作品ですかと聞いたところ、社会復帰した若い時の物で、初めて作ったのですと聞かされた。作品は若さと迫力を感じ喜びに浸ったひとときであった。

期間は一週間というから、一度ならず二度も三度も見に来たいと思い帰ることにした。

中日には神輿担ぎ。ワッショイ、ワッショイの掛け声で一階から登って来た神輿を形どった八十センチ位の大きさの物を神輿に見立て、二メートルくらいの竹を二本通して、二人で担いで掛け声を掛けながら元気良く見せてくれた。食堂に来られない方に部屋毎に回って見せてくれた。

次は獅子舞。女の方が前になって扇をかざし、掛け声を掛けながら威勢良く獅子頭を振り振り二人で踊る。ぱくぱくと皆さんの頭を噛むようにして祝って踊ってくれた。皆さんは喜んで楽しむことが出来たのは良かったと思っている。最後の日にはどんな催しがあるのか楽しい日が待たれる。

第16回花火大会

－ 平成26年7月26日 －

輪投げコーナー

新生園の夜を飾る花火

エアトランポリン♪

出店からはいいにおいが…